

【トピック 2】 5月27日

**全国10大学の災害ボランティアスタッフが集結  
大学間連携のキックオフミーティングを開催**

東北学院大学災害ボランティアセンター設置より2ヵ月が経った。これまで被災地大学として各大学の支援受け入れ、ボランティア学生のコーディネートに奔走していたボラスも、今後の活動の長期化、今夏のボランティア学生の受け入れ、コーディネート活動を円滑に進めるため、全国の姉妹校・協力校を招き、「東日本大震災に対する大学間連携によるボランティア活動」のキックオフミーティングを開催した。

当日は、青山学院、明治学院、関西学院、立命館、中央、麗澤、桜美林、名古屋、中部、そして本学の全10大学が参集。冒頭、佐々木俊三東北学院大学災害ボランティアステーション代表の挨拶と全大学への提案がなされ、ボランティアステーション活動の継続的な支援の枠組み構築、被災地復興に向け今年特別な意義を持つであろう「仙台七夕」へのサポート、情報ボランティアネットワークの構築などを提言。被災地であり仙台からも遠隔地となる気仙沼市への重点的な支援活動への取り組みを提案し、満場一致で採択された。その後各大学の具体的な災害ボランティア活動の報告と今後の抱負などが披露された。東北学院大学の活動報告としては、瓦礫撤去・汚泥除去、読み聞かせや、海外からのメッセージの翻訳ボランティア、河北新報社のwebサイト「ふらっと」で情報ボランティアスタッフとして参加している学生の報告が行われた。約3時間にも及ぶミーティングはここで一時閉会。その後フリートークの情報交換が続けられ、今後の大学間連携に向けさらに“きずな”を深めていた。